

「吸う人、吸わない人が協調して共存できる社会を実現していきたい」と語る
山本至誠支店長＝岐阜市橋本町、日本たばこ産業岐阜第一支店



J T 岐阜第一支店・山本支店長

「県内シェア拡大」

加熱式たばこ販売も注力
喫煙本数が減少している中、日本たばこ産業（ＪＴ）岐阜第一支店は、危機感を持って県内シェア拡大に注力している。山本至誠支店長は「県内では、４４０円以下の低価格帯でタールが１ミigram程度の軽いたばこが好まれ、加熱式たばこ「ブルーム・テック」が県内でも発売される予定。福岡で先行販売し、手応えを感じている。６月には東京で販売を始め、来年上半年には、岐阜を含め全国での販売を目指している」と述べ、紙巻きたばことともに、ブルーム・テックの販売も注力する。ＪＴは喫煙環境の整備に注力しており、県内では昨年、ＪＲ高山駅や大垣市のソフトピアジャパンなどの観光地や公共施設のほか、事業所に喫煙所を設置した。「吸う人、吸わない人が協調して共存できる社会を実現していきたい」とさまざまな環境整備を推進する。一方、社会貢献活動にも積極的に、中津川市では、環境保全に向け「ＪＴの森」活動を行い、住民と間伐などに取り組んでいる。４月２６日には岐阜市の岐阜都ホテルで「ＪＴフォーラム」が開かれる予定で、「今後こういう」と語った。